

第2学年 英語科学習指導案

日 時 平成20年10月9日(木) 公開授業Ⅱ
場 所 久慈市立侍浜中学校 2年A組教室
生 徒 2年A組(男子16名 女子12名 計28名)
授業者 教諭 高木 誠一郎

1 単元名 Unit 6 The Story of Silent Night

2 単元について

本単元は、クリスマスを共通テーマに代表的な歌の一つである「きよしこの夜」をめぐる話題を取り上げている。前半は、クリスマスイブのブラウン家の様子描写と、プレゼントにもらったクリスマスに関する本についての絵美とジュディの対話となされ、後半へとつながっている。後半は「きよしこの夜」の誕生のエピソードが取り上げられ、心温まる物語となっている。

ここで扱う主な文法事項はThere is (are)～. の構文及び動名詞の文の形・意味・用法である。これらを理解し、それらを用いて簡単な対話や表現ができることをねらいとしている。物語の部分では場面の変化や登場人物の心情などを読み取って、それが表れるように朗読することを目的としている。

3 生徒について

この学級の生徒は素直で指示されたことに対してまじめに取り組み、予習を前提に授業に臨む生徒が多い。授業態度も落ち着いており、まじめに取り組んでいるが、教師の発問に対して周りの様子を伺う雰囲気が見られ、積極的にコミュニケーションを図っていかこうとする姿勢に乏しい。

また、学習が進むにつれて語彙力や文法の既習事項が定着しきれずに英語に対して苦手意識をもつ生徒や宿題など家庭での学習に対して習慣化が図られていない生徒も見られるようになった。「どこまでを」「何のために」といった学習の目標、目的が明確になり、英語学習の必然性を意識できるようになれば、より自主的・意欲的に取り組むのではないかと思われる。

4 指導について

授業実践においてはより具体的な課題の設定や発問の工夫、ペア・グループによる活動を取り入れ、テンポのある授業を展開しながら基礎・基本の定着を図り、課題の解決に迫っていききたい。

生徒にコミュニケーション活動をさせる場面では到達すべき目標を明確にし、生徒自らが主体的に学習に取り組み、満足感や自己肯定感をもてるような発言や発表の場を工夫をしていきたい。

基礎・基本の定着不足の生徒に対しては個別にアドバイスや助言を行い、まとめの段階では補充プリント等を用いてその定着を図りたい。

本時では新出文型であるThere is (are)～. の導入をそれだけでは表現活動に取り入れにくいと考えられるので架空の場面設定ではなく、実際に使用されている久慈市の英語版の地図を使用し、学習内容が生徒の実生活に活用されていることに気づかせながら授業を展開していきたい。

また、キャリア教育とのつながりで身につけさせたい能力として言語活動の主であるコミュニケーション能力の育成を意図した指導を行うとともに、英語学習と社会や職業生活との関連付け

る手だてとして実際の職業人のインタビューを取り入れ、英語学習の必然性を意識させたい。

5 単元の目標

〈コミュニケーションへの関心・意欲・態度〉

There is(are)～. の構文や動名詞の表現を用いて進んで発話したり、様々な言語活動に積極的に取り組もうとする。

〈表現の能力〉

There is(are)～. の構文や動名詞の表現を正確に話したり、書いたりすることができる。

〈理解の能力〉

There is(are)～. の構文や動名詞の表現を含んだ英文を正しく聞き取ったり、本文の内容を読み取って言うことができる。

〈言語や文化についての知識・理解〉

There is(are)～. の構文や動名詞の文の形、意味、用法を理解することができる。

6 単元指導計画(8時間)及び評価規準

学 習 項 目	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
Starting Out	2 1 / 2 本 時	There is(are)～. 構文(肯定文)の形・意味・用法を理解し、表現する。	<p>〈関〉 There is(are)～. 構文(肯定文)を用いて積極的に英語で表現しようとする</p> <p>〈表〉 There is(are)～. 構文(肯定文)を正確に話したり、書いたりすることができる。</p> <p>〈理〉 教科書本文の内容を聞き取って音読することができる</p> <p>〈知〉 There is(are)～. 構文(肯定文)の形・意味・用法を理解することができる</p>
Dialog	2	There is(are)～. 構文(疑問文と応答)の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。	<p>〈関〉 There is(are)～. 構文(疑問文と応答)を用いて積極的に英語で対話しようとする</p> <p>〈表〉 There is(are)～. 構文(疑問文と応答)を正確に話したり、書いたりすることができる。</p> <p>〈理〉 教科書本文の内容を聞き取って音読することができる</p> <p>〈知〉 There is(are)～. 構文(疑問文と応答)の形・意味・用法を理解することができる</p>
Reading for Communication	3	動名詞(目的や主語)の文の形・意味・用法を理解し、表現する。 物語を読んで場面の変化や登場人物の心情などを読み取り朗読する	<p>〈関〉 進んで音読練習や朗読に取り組もうとする。</p> <p>〈表〉 動名詞(目的や主語)の文を正確に話したり、書いたりすることができる。</p> <p>〈理〉 教科書本文の内容を読み取って聞き手に伝わるように朗読することができる</p> <p>〈知〉 動名詞(目的や主語)の形・意味・用法を理解することができる</p>

Listening Plus6 単元のまとめ	1	校内放送を聞いて 計画しているイベ ント内容を聞き取 ることができる	〈関〉集中して聞き取ろうとする。 〈理〉話された英語の内容を正確に聞き取ることが できる 〈知〉There is(are)～.の構文や動名詞の文の形・ 意味・用法を理解し、問題に答えることができ る。
---------------------------	---	---	---

7 本時の指導

(1) 評価規準(目標)

〈コミュニケーションへの関心・意欲・態度〉

There is(are)～.構文(肯定文)を用いて英語で表現しようとする

〈表現の能力〉

There is(are)～.構文(肯定文)を発表したり、書いたりすることができる。

〈理解の能力〉

教科書本文の内容を読み取って音読することができる

(2) 展 開

段階	学習内容	学習活動	○指導上の留意点 ・資料 ☆評価の観点
導 入 10 分	あいさつ 1 課題作り	英語で簡単なあいさつを行う。 1 久慈市の地図をもとに Where is ～?How many～?等の発問に答える インタビューテープを聞く。	○地図、ワークシート使用 【手だて①-A職業理解能力】 本時の学習と職業とのつながり について触れる
	2 学習課題の設定	2 学習課題を確認する	○本時の方向づけをする
久慈市内の様子について表現しよう			
展 開 40 分	3 新出文型の理解	3 新出文型 There is(are)～.の形、 意味、用法について推測しながら 教師の発問に答える。	○発問しながら新出文型を板書し、理解させる
	4 新出文型の定着	4 新出表現についてしっかりとした音声で話すこ とができるまで繰り返し口頭練習を行う	○全体練習から個別に指 名し定着度を図りなが ら進める
	5 課題の解決	5 地図を使って久慈市内の様子につ いて There is(are)～.の文をワー クシートに作成し、全体の前で発 表する。	○書く時間は5分程度に とどめる。 ☆〈表現〉【手だて①-A コミュニケーション能力】
	6 教科書の内容理解	6 教科書の内容を黙読し、ワークシ ートの発問に答える	○答え合わせをさせる
	7 教科書の音読	7 ペアで音読練習	教え合いの指示

		個別練習 全体の前で音読を発表する	制限時間目標設定(20秒) ☆〈理解〉
ま と め 5 分	8 まとめ	8 本時での自分の取り組み振り返る 家庭での学習内容を知る 次時についての確認をする	・評価シート ○次時の予告を行う

(3) 評価規準と具体的評価規準

観 点	具体的評価規準		十分満足できると判断する具体的な状況【A】	おおむね満足できると判断する具体的な状況【B】	「努力を要する」と判断される生徒への支援
	評価規準(方法)				
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	There is(are)～. 構文(肯定文)を用いて英語で表現しようとする (行動観察)		教師の発問等に対して自分なりの考えを挙手し、積極的に発言しようとする	There is(are)～. 構文(肯定文)を用いて英語で表現しようとする	発表ができるような助言等を与え、発言をうながす
表現の能力	There is(are)～. 構文(肯定文)を発表したり、書いたりすることができる (ワークシート、発言)		There is(are)～. 構文(肯定文)を正確に発表したり、正しく書いたりすることができる	There is(are)～. 構文(肯定文)を発表したり、書いたりすることができる	本時の学習課題を個別に繰り返し教えながら、ヒントや助言を与える
理解の能力	教科書本文の内容を読み取って音読することができる (ワークシート、発言)		教科書本文の内容を読み取って自信を持って本文を最後まで正確に音読することができる	教科書本文の内容を読み取って音読することができる	教え合い学習を取り入れ、自信を持たせるとともに、発音できない語を教えるなど個別に支援する